

11・12月の主な研修



【動画】：開始日(10:00)終了日(17:00)
 以外は、24時間視聴可

- 認知症の緩和ケア研修「日本BPSDケアプログラム」
 R4.11.1(火)～12.2(金)【eラーニング】
 R4.12.23(金)、R5.2.8(水)10:00～正午、
 14:00～16:00【ライブ】講師 西田淳志氏 他
- 高齢・障害支援力向上「作業環境の工夫」【動画】
 R4.11.1(火)～11.30(水)講師 関典子氏、紫尾田リ工氏
- 障害者施設職員職層(中堅)
 R4.11.22(火)13:30～16:00【集合】
- 福祉従事者が学ぶクレーム対応研修【集合】
 R4.11.11(金)14:00～16:00講師 蜂谷英津子氏
- 障害者施設職員職層(施設長・管理者)
 R4.11.15(火)～12.12(月)【動画】講師 茨木尚子氏
 R4.12.13(火)13:30～16:00【集合】
- 人材確保・人事管理セミナー
 R4.11.15(火)～12.20(火)【動画】講師 藤野和良氏
 R4.12.21(水)14:00～15:00【ライブ】
- 嚥下状態に合わせたやさしい介護食の調理【集合】
 R4.11.17(木)10:00～12:30、14:30～17:00
 講師 竹内洋子氏、村上奈央子氏

- 福祉職が学ぶリーダーシップ【ライブ】
 R4.11.17(木)18:00～20:00講師 諏訪茂樹氏
- 高齢・障害支援力向上「嚥下障害の理解とケア」【動画】
 R4.11.24(木)～12.26(月)
 講師 安保直子氏、武井裕理氏
- 「時間短縮！利用者宅にある食材で作る調理」【動画】
 R4.11.25(金)～12.26(月)講師 矢澤ちなみ氏
- サービス提供責任者研修「医療知識」(現任2)【動画】
 R4.11.25(金)～12.26(月)講師 大原昭江氏
- ケアマネジャー研修(共通)「社会資源」【動画】
 R4.11.28(月)～12.28(水)講師 世田谷区職員
- サービス提供責任者研修(現任1)「訪問介護計画」
 【動画】R4.12.9(金)～R5.1.10(火)
 講師 佐藤ちよみ氏
- 信頼関係を築くための接遇・マナー向上研修
 【ライブ】R4.12.13(火)14:00～16:00
 講師 蜂谷英津子氏

※詳細は研修センターホームページ、Twitter、Fax情報便等
 でお知らせします。



せたがや福社区民学会 第14回大会開催

せたがや福社区民学会第14回大会は、駒澤大学駒沢キャンパスにて3年ぶりに
 集合形式で「心でつながる未来につなぐ」をテーマに、感染症対策を講じて開催いたします。

日時 令和4年12月3日(土) 12時～17時30分(開場:11時30分)

会場 駒澤大学駒沢キャンパス 種月館(3号館) 世田谷区駒沢1-23-1

- 内容
- ◎基調講演 「いのちとくらしを守る～地域防災と地域福祉の融合～」
 川上 富雄氏 (駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻 教授)
 - ◎実践研究発表 46事例
 - ◎ワークショップ 「みんなで守るいのちとくらし」
 - ◎「KaiGO PRIDE@SETAGAYA」写真展

参加費 500円(資料代)

皆さまのご参加
 お待ちしております



グループセッションを行います
 ぜひお申込ください!!

※大会の詳細は、令和4年11月上旬以降
 事務局ホームページをご覧ください。
<https://www.setagaya-jinzai.jp/society>



編集後記

連休を利用し、久しぶりに田舎に帰省。台風一過で
 雨上がりの空気は澄み、大きく深呼吸。コロナ禍で縮
 こまっていた身体を思いきり伸ばす。目に映るのは空
 の青、山のふもと、そしてヒガンバナの赤。途中、人
 で賑わう道の駅でお買い物。いつの間にか、ウィズコ
 ロナの生活も定着してきたのを感じる。
 今年度の「せたがや福社区民学会」は、3年ぶりに
 大学での開催を予定している。どうぞ、そのままウィ
 スコロナで開催できますように！皆様のご来場を心よ
 りお待ちしております。

発行：世田谷区福祉人材育成・研修センター
 〒156-0043世田谷区松原6-3-7-10
 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階
 電話：03-6379-4280
 FAX：03-6379-4281
 H P：https://www.setagaya-jinzai.jp/



世田谷区福祉人材育成・研修センター

だよ

じんざいくん便り

令和4年10月 第15号



【福祉の理解】～世代を超え、福祉の理解を深めていただくために～
 「せたがやシニアボランティア研修」「手話カフェ」を通して、「介護職員初任者
 研修」や、「入門的研修」に繋がる方もいらっしゃいます。
 今後も、福祉の理解が深まり、やさしい地域づくりに繋がるよう取組んでまいります。



せたがやシニアボランティア研修



高齢者の方々に地域でいきいき元気に活動
 していただけるよう、集合研修5回、動画視聴研修2回実施しています。
 毎回好評で、多くの方に参加いただいています。
 研修では、「施設」「あんしんすこやかセンター」「高齢者安心コール」
 のボランティア活動の説明、実際にシニアボランティアとして活動されてい
 る方のお話も紹介しています。



ボランティアのお話

「ボランティアが生きがい」と楽しそうに語る姿に、
 「活動したいという気持ちになった」「ボランティアの
 具体的なイメージができて良かった」「できることから
 始めてみようと思った」と感想をいただいています。皆さんとても意欲的で、「何
 かできることがあればやってみたい」「施設のボランティアをしてみたい」などの
 声があり、お帰りの際にボランティア登録の相談も寄せられました。
 受講者の「社会貢献をしたい」という気持ちを強く感じました。

手話カフェ

第2金曜日午後2時～3時「ふれあいカフェ うめとびあ」で
 手話カフェを開催しています。世田谷区聴覚障害者協会の方を先生に迎え、毎回、多くの方に参加いた
 だき、様々な年代の方々が一緒に学んでいます。挨拶・単語・自己紹介・指文字等を学び、手話で簡単な会
 話ができるようになり、「楽しく学習できた」「あっという間に時間が経ち、もう少し時間を長くして欲
 しい」との声もあります。

毎回、講師の優しい指導のもと、
 手話の奥深さにふれ、終了時には、
 皆さん優しい笑顔に包まれています。
 いつからでも参加できます。
 手話に興味のある方のご参加をお
 待っています。



【資格取得支援】 質の高いサービスの提供を目指して・・・

介護職のキャリアパス



○認定介護福祉士 介護福祉士の上位資格

○介護福祉士 ※ 介護・福祉分野の国家資格

450時間

○介護福祉士実務者研修 ※ 介護職としてキャリアアップを目指す資格

130時間

○介護職員初任者研修 ※ 介護職として必要不可欠な知識と技術を得得できる研修

21時間

○介護に関する入門的研修 ○ 介護の基本的な知識や技術が学べる研修

○介護の基礎研修(録画視聴) ○
 福祉の仕事に興味のある方、就職・復職を考える方が介護の基礎知識や技術を学ぶ研修

※ 世田谷区研修受講料等助成(要件あり) ○ 研修センターで実施

書展「金澤翔子の世界」
 10月21日～11月18日
 in ふれあいカフェ うめとびあ



研修ピックアップ

障害福祉の理解研修「精神障害の理解と支援」～当事者と家族を支える支援者を目指して～

【動画視聴】 視聴期間：令和4年9月26日（月）～10月25日（火）

この研修では、第一部「精神疾患・障害の医学的な知識や疾患の特徴、疾患を理解する上でのポイント」第二部「支援者として当事者や家族と接する際のコミュニケーションの基本や相談対応、当事者と家族への支援の実践」について学びました。



講師：白石 弘巳 氏
埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック院長

I (1) 精神疾患と精神疾患に罹患した人についての理解

- 精神疾患：一定の**精神症状の組合せから診断される**
- 精神疾患の理解：**症状と程度の把握**に加え、り患者の**心理的・行動的な反応を把握すること**

I (2) 精神疾患を理解するポイント 統合失調症を例に

- ①急性期の特徴：幻覚妄想状態
- ②病識がない：自分が病気と思えない。自分に起こった体験をどうしても否定できない。
- ③慢性化した患者の特徴：・幻覚や妄想が完全にはとれない・ストレスに弱くなる・疲れ易くなる・変化を避けようとする姿勢が強くなる・廃用性の能力低下・生活習慣が乱れやすい▶二次的**症状**：昼夜逆転、ひきこもり、家庭内暴力など。

I (3) うつ病理解のポイント

- ・さまざまな症状が出現する。中には妄想もある。
- ・こころの風邪ともいわれるが慢性化もする。
- ・慢性化した人は「気が弱い」感じ。でも、常に回復の可能性を秘めている。
- ・「すまない」という気持ちを抱きやすい。

I (4) 境界型パーソナリティ障害理解のポイント

- ・対人関係がうまくいかない。・多彩な症状が一時的に出現する。・周囲に対する依存も反発も極端に出る。
- ・いかに揺れ幅を小さくさせるかが課題。
- ・行き過ぎた行動に対する限界を設定することが重要。

I (5) アルコール依存症の理解のポイント

- ・アルコール依存症は、脳の病気です。→精神依存と身体依存が存在する。
- ・根治薬は今のところない。
- ・治療方法について知ること（AA、断酒会）
- ・家族の理解が大切（イネイプリング）
- ・「底つき」を待たずに治療を開始させるための努力が払われている。

I (6) 診断がついている患者(利用者)のチェックポイント

- ①**症状が重かったときの状態を知る**
- ②**現在の状態を見るポイント**：・睡眠状態・表情・気分・通常とは異なる内的体験・姿勢や身体の動き・その他精神状態と関連する身体の特徴
- ③本人の訴えと態度・行動を総合し、「いつもと違う」「**なんだか変だ**」という感じがあるかを重視
- ④いつもと違うときは、なぜ？と考えてみる。

受講生の声(アンケートから)

- ・統合失調症の対応も認知症や価値観の異なる利用者の対応と共通し根気強く関係性をつくるのが大事と思った。
- ・「悪くしないことが大切」の考え方はシンプルだが、支援を受ける方も支援者側にも非常に大切と感じた。

II (1) 接し方の基本

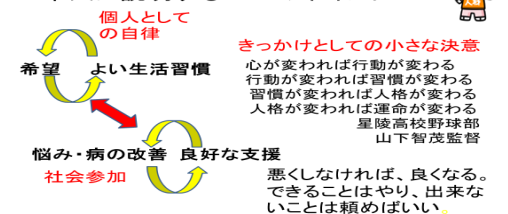
- ①**落ち着いて、親しみを込めた接し方**。上から目線に注意。(One down position) ②**説明に配慮**。③**対立を避ける**。④決める時は本人の意思の確認が大切。⑤患者さんは**繊細な人**であることを忘れない。⑥**暴力や社会的に許されないことについては、一貫した対応**。

II (2) 合意に達する方法 LEARNのプロセス

- ①よく聞く (listen) ②来談者の訴えを支援者の言葉で説明する (explain) ③その説明でよいのか確認する (acknowledge) ④その上でアドバイスを言う (recommend) ⑤そのアドバイスについてどう思うか尋ねて、**合意を目指す** (negotiate) **情報のキャッチボールを丁寧に！**

II (3) 自立の考え方・本人に説明する三つのポイント

- ・**大切なのは、できることは自ラ行い、できないことは人に頼むことができる力を持つこと**
- ・人に頼むことは、「弱さの表れ」ではなく、むしろ「強さの表れ」と伝えていきます。
- ▶**どんな重い状態でも自立は得られます。**
- 本人に説明する三つのポイント



II (4) 精神障害と家族 ●「親あるうちの自立」へ

- ・病気の原因としての家族・本人の改善を阻害する要因としての家族・治療の協力者、療養の援助者としての家族・病気の被害者としての家族▶**柔軟に見ることが必要**
- 親あるうちの自立**：病の軽重に関わらず、本人と家族が自立し、人生を歩むことは可能。支援者は「親あるうちの自立」について真剣に考える必要があります。

II (5) 家族との相談対応の実践 寄り添いながら向き合う

- ・**相談にきたことをねぎらう**。・**心配を傾聴し受け止める**
- ・いいところ探し・本人の状況について理解を共有する。
- ・良くすることも大事だが、**悪くしないこともそれ以上に大切！**・**コミュニケーションの大切さを伝える**。

- ・家族全体を支援する視点を持つことが大切と思った。
- ・対立を避け、傾聴、対話、良い点に気づき寄り添うことが大事と学んだ。
- ・自殺願望の方に、止める助言ではなく「死なないで欲しい」「医師に相談して欲しい」と言うことを学んだ。

介護予防ケアマネジメント研修（現任）

【動画研修】

「ICFの概要とリハビリテーションへの活用」 視聴期間：令和4年9月9日（金）～9月23日（金）

この研修では、介護予防ケアマネジメントの質の向上に向けて、アセスメントのプロセスや様々な地域資源の活用等について再確認し、モニタリング時の項目を明確にし、自立支援・重度化防止を意識したケアマネジメントを実務で実践できることを目指します。講義の内容について紹介します。この後、事例検討（集合）を実施しています。



研修講師

医療法人社団 輝生会
在宅総合ケアセンター成城
理学療法士 松原 徹 氏

1. ICFとは？

国際生活機能分類
International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF)

- ・障害に関わる項目：1,454項目
- ・パート：健康状態、心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子

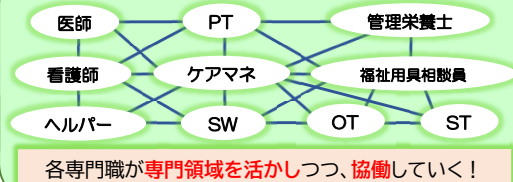


- ・参加は**ICF**を使って情報を整理する上で最も重要
- ・参加レベルの情報を整理するには、**利用者の本当のことを**知らなければなりません。

利用者の能力の**プラス面からの視点**が大切！

リハ職が直接的に関わり、強みを発揮できるのがここ！

生活期の専門性と多職種協働イメージ



各専門職が**専門領域を活かしつつ、協働**していく！

2. まさにケアマネジャーの役割！

ICFモデルを活用することで、利用者の**全体像を把握**することができ、それにより多職種間での共通した考えをまとめられ、各職種の利用者に対する介入方法の見直しにもつながります。

自分の職種のテリトリーだけではダメ！

全体像を**俯瞰してマネジメント**することこそ、ケアマネジャーの役割！▶**多職種協働しながら力を発揮**できる！

3. ICFの活用で期待される効果とは？

当人(本人)やその家族、保健・医療・福祉等の幅広い分野の従事者が、**ICF**を用いることにより、生活機能や疾病の状態についての**共通理解を持つ**ことができる。

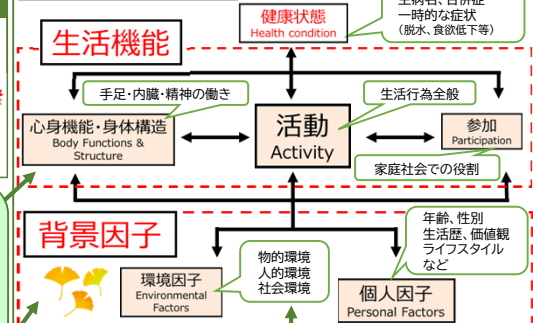
2007厚生労働省大臣官房統計情報部より

訪問リハや通所リハで使用しているリハビリテーション計画書は**ICF**をベースに作成されています。

受講者の声(アンケートから)

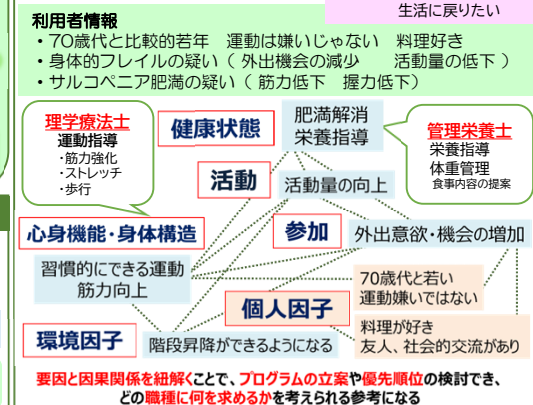
- ・本人の強みにフォーカスすることが自己肯定感を高め、意欲をアップするということが分かった。

ICFの生活機能構造モデル



- ・ひとりの人間にとって、その人以外は**すべて環境！**
- ・**個人因子はその人らしさ**を考える上で重要！

ICFを活用した支援方法の具体例



4. ICFの活用に向けて大事なポイント

1. 利用者（個人）の**生活を包括的**に捉えること。
2. 生活機能の3つの領域を意識し、「**活動**」「**参加**」の目標に繋げるために、各領域の関連を**双方向的**に考えることが重要。
3. 在宅の医療・介護の現場において、**ICFを共通言語**として活用することで、利用者の課題が共有でき、**職種を越えた連携の強化**に繋がる可能性あり。

- ・あらためて介護予防ケアマネジメントの核である、自立支援の考え方を分かりやすく学ぶことが出来ました。また他職種の連携の中でケアマネが包括的に生活を捉えるということが大切だと学ぶことが出来ました。